

編集後記

日頃よく耳にする「脳卒中」、しかし誰も自分の身、家族の身にそれが降りかかるとは思っておられません。

突如その一つが現実のものになったとき、誰しもが今までの生活が崩れ去ったと感じ、途方に暮れてしまうことでしょう。

手足が動かなくなった、あるいは会話が出来なくなった、そんな自分や家族にふれて、これからどうしたらいいかを考える気持ちの余裕がまったく無くなってしまわれます。

そのような時に「いま何が起きているのか」、「これからどのように対処して行けばいいのか」を知る、考える一助になればと思い、この小冊子を作らせていただきました。

私たちは、リハビリ目的で入院された患者さんたちが、落胆されている状態からどう変わっていかれるか、退院された後、どの様に考え方が変わっていかれるかを患者さんやその家族の方々から常日頃教わっております。

私たちがすべてを理解しているとは到底言えませんが、重度の障害を遺した患者さんたちが、次第に未来に目を向けられ、新しい目標を見つけられ、今までとはまったく違う生活の中で生き生きと生活されておられる様子を拝見する機会がとても多いのです。

それをこの小冊子からいくらかでも読み取っていただくことが出来れば、われわれにとってこれ以上の喜びはありません。

平成24年3月

いわてリハビリテーションセンター
副センター長 立木 光

財団法人 いわてリハビリテーションセンター

〒020-0503 岩手県岩手郡雫石町七ツ森16番地243
TEL 019 (692) 5800 FAX 019 (692) 5807
E-mail : info@irc.or.jp URL <http://www.irc.or.jp/>

このパンフレットは岩手県高次脳機能障がいこころのケア支援事業の一環として作製したものです

